



Web Fairy Paradise

第16号

今月のフェアリー詰将棋

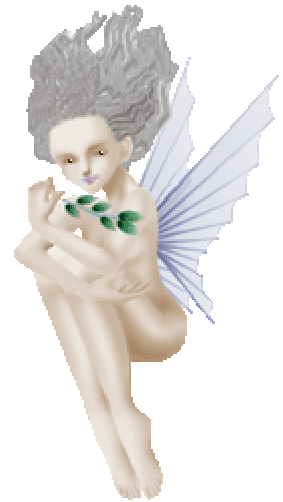
- ・ 第15回WFPフェアリー作品展
- ・ 推理将棋第27回出題
- ・ OFM 第 152 回出題
- ・ Fairy of the Forest #21

結果発表

- ・ 第14回WFPフェアリー作品展
- ・ OFM 第 151 回出題
- ・ 推理将棋第26回出題
- ・

読み物

- ・ フェアリー版 迷宮の果てに結果
- ・ 妖精賞の系譜 (4)



2009/10

はじめに

ここ最近ネットでのフェアリー関連のページにいろいろと動きがあるのでそれを記します。

まず残念なところから9月17日で若林さんのYOMUKA FAIRY MEMO が更新停止になりました。フェアリー関連のサイトが減るとするのは本当に残念なことです。WFPについての感想等も話題にして頂いていましたので、それが読めないのは寂しいですね。気が向きましたらWFPへの感想、WFPへの読み物投稿をお願いします。長い間お疲れ様でした。

次に注目されるのは、山田嘉則さんのブログ「いまさらブログでもないけれど」

<http://hippo.heteml.jp/gr/>

で「左真樹・出口信男作品紹介」の企画が始まったという事。ちなみに私は、左真樹＝出口信男という事実を初めて知ったのですがこれには驚き（＝納得）しました。発表作は約200作ですがその全てを順次紹介していくとの事。これは注目です。

妖精都市からは、フェアリーデータベースが更新との記事が、将棋パズル掲載作を追加し検索データがfdb 0.23版となっています。これらを利用するには太郎さんにパスワードを問い合わせれば出来ますので、希望者は、「妖精都市」→「Fairy Database」→「ダウンロード」を確認し申し込んでください。

あと注目はプロパラのParadise Booksでの新しい企画「この詰将棋がすごい！2009」。2010年6月に発刊予定だそうだが、担当者選考による2009年度に発表された作品よりベスト詰将棋を選んで解説するというもの。実はジャンルの中にフェアリーもあるのだ。これは注目だ。妖精賞 vs Fairy Top IXになるのか、それ以外になるのか・・・楽しみです。

さて今月号は、妖精賞の系譜4、七郎さんからの寄稿「フェアリー版 迷宮の果て結果」の発表です。単なる結果稿ではなく、興味ある読み物になっていますので注目です。図を読みやすくするため標準の2段組ではなく七郎氏より送られてきた原稿のままの1段組でお届けします。

【募集】

作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。ページが埋まれば私は嬉しい？読者サロンのような感じで送っていただければと思います。

感想

第16号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：takuji@dokidoki.ne.jp

協力いただいている方々のHPアドレス

* ご協力感謝します

妖精都市

<http://www.geocities.jp/cavesfairy/>

詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

Onsite Fairy Mate

<http://www.abz.jp/~k7ro/>

K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

[作品投稿要項]

- 1) 作品投稿は随時受け付けています
- 2) ルールは不問です。フェアリー系ルールならばかしこでも可です(安南詰 etc)
- 3) FM 等で検討済みの場合はその旨を付記して下さい
- 4) FM 等で検討出来ない場合は検討の手伝いをします

[解答要項]

解答締切：平成21年11月15日

本作品展は、正式発表とし TOP IXの対象となります。また解答のコメントは結果発表にて掲載いたしますのでご了承下さい

作品投稿及び解答は

webfairyparadise_you@yahoo.co.jp

お願いします

余詰・近況報告は

<http://circe-pro.cocolog-nifty.com/blog/>

で行っています。確認の上、解答下さい

ルール説明

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方玉を詰ます

【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方玉を詰ます

【アンチキルケ】

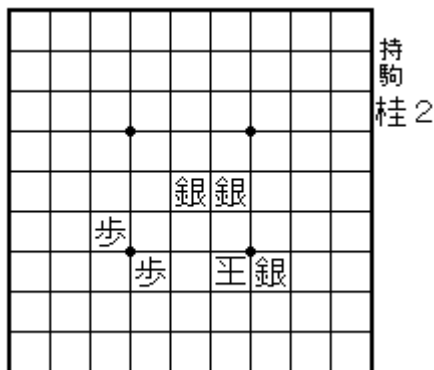
1. 駒取りを行った場合、駒取りをした駒は最も近い初期位置に戻る。
2. 5筋の金銀桂香は取った側が戻る位置を選択できるが、片方にのみ戻れる場合は強制的にそちらに戻る
3. 成駒は成ったまま戻る
4. 初期位置に駒があり戻れない駒は戻らない
5. 駒取りの発生時、駒が戻るまでを一手と見なす
6. 詰みの概念はフェアリーに準ずる

【前節】

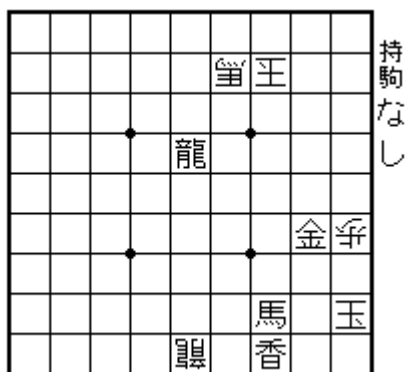
今回は易しい作品が多いです。是非、解答宜しくをお願いします

某氏より、投稿数を定期的にブログに出してはどうかと言われました。最初に投稿状況載せていたのですが、投稿を急かす・解答を急かすという事をやっているみたいで何となく止めたのですが…… どうしますかねえ

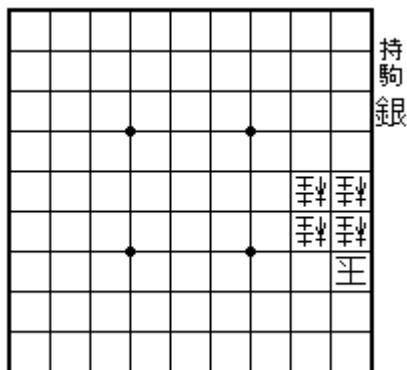
第 1 番 雲海氏作 協力詰 9 手



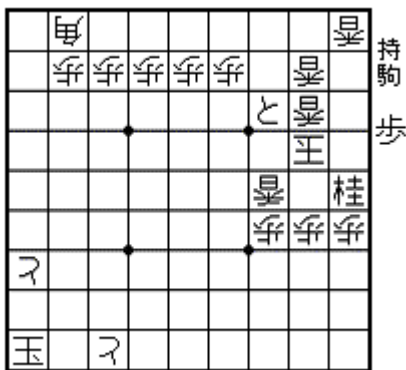
第 2 番 雲海氏作 協力自玉詰 10 手



第 3 番 たくぼん氏作 協力詰 11 手



第4番 たくぼん氏作
アンチキルケ協力自玉詰28手



詰将棋メモ

推理将棋第27回出題

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第27回出題です。はじめての方は
[どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門](#)

(http://toybox.tea.nifty.com/memo/2007/05/post_53f2.html) をご覧ください。

解答、感想はメールで2009年10月20日までに TETSU まで

(omochabako@nifty.com) メールの題名は「推理将棋第27回解答」でお願いします。全解答者から抽選で1名に賞品リスト(<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/tenji/shohin.htm>) からどれでも一つご希望のものをプレゼント!

推理将棋第27回出題

担当 タラパパ

今月は推理将棋界を背負うベテラン作家お二人の作品です。

初級のミニベロさん作は基本手筋の一つ。これで弾みをつけて一気に中上級へ!

中上級は詰将棋なら姉妹局に当たるでしょうか。共通条件を用いた異手順作品は渡辺さんお得意の分野です。

追加ヒントを10日頃に出す予定です、ご期待ください。

追加ヒント (10月12日タラパパ)

初級：終了時の先手の持ち駒は銀が一枚だけ。

中級：最後に角を打ったのは9段目。

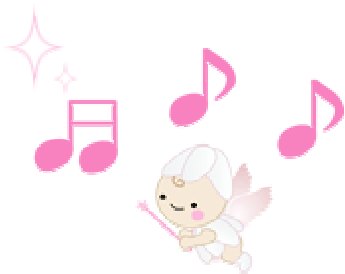
上級：問題文にハマらないでください。止めは連続王手。

追加ヒント (10月17日タラパパ)

初級：「4手目は4筋の手」を「6筋」に変えるとよく似た別手順になります。

中級：桂馬を打ったのは4段目。

上級：桂馬を打ったのは6段目。



27-1 初級 ミニベロさん作
銀2枚取り 9手

9手で銀を2枚取って詰める基本パターンは二つ。さて、本局はどっち？

27-2 中級 渡辺秀行さん作
8手目の桂打ち(1) 10手

7段目の玉位置を、勘で決めうってくださると解き易い？

27-3 上級 渡辺秀行さん作
8手目の桂打ち(2) 10手

飛車を何手目にとったかは論理的に決まるはず。その先はヒネリが・・・。

27-1 初級 ミニベロさん作
銀2枚取り 9手

例によって、傍目八目の3人の会話です。

「たった9手で銀2枚取って詰ませるとは、なかなか出来るな！」

「しかもそのうち1枚は不成りで取っているとは！」

「後手の4手目の4筋の手が大悪手だったからで、大したことはないよ」

さて、どんな手順の将棋だったのでしょうか。

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 先手は取った2枚の銀のうち、1枚は不成りで取った
- ・ 4手目は4筋の手

中上級 渡辺秀行さん作
8手目の桂打ち

A君「ちょっと聞いてくれよB君。8手目に

桂を打たれたよ。しかも初手と同じ筋に」

B君「奇遇だね。僕も同じだったよ。その後どうなった？」

A君「7段目の玉が悪かったのか、10手目に角を打たれて詰められてしまったよ。しかも初手と同じ筋に」

B君「10手で詰められたのは同じだね。僕の場合は相手は成駒で飛車を取ったのに、使ってこなかったんだ。飛車余りで詰められるなんて口惜しいなあ」

さて、A君とB君の指した将棋はどんな手順でしょうか？推理して下さいね。

27-2 中級 渡辺秀行さん作
8手目の桂打ち(A君) 10手

(条件)

- ・ 10手で詰み
- ・ 8手目は初手と同じ筋の桂打ち
- ・ 7段目の玉を初手と同じ筋の角打ちで詰めた

27-3 上級 渡辺秀行さん作
8手目の桂打ち(B君) 10手

(条件)

- ・ 10手で詰み
- ・ 8手目は初手と同じ筋の桂打ち
- ・ 後手は成駒で取った飛を使わなかった

Onsite Fairy Mate 第 152 回出題

開催日 : 2009 年 10 月 11 日 (日)
 解答締切 : 2009 年 10 月 31 日 (土)
 解答発表 : 2009 年 11 月 1 日 (日)

神無七郎 作
 協力詰 95手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				♞					三
				♞					四
			♜	♞	♞				五
			♞	♞	♞				六
		桂		♞	桂	桂			七
				桂	♞				八
		王	桂	桂					九

持駒 金26銀21桂

【ルール説明】

協力詰 (=ばか詰)
 先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

本作の E-mail で管理人宛
 (janacek789@ybb.ne.jp) に送ってください。

【コメント】

英語の接頭辞に「メタ (meta)」という言葉があります。詰将棋の世界では山本昭一氏作「メタ新世界」の命名に使われてから、一時ブームになりました。元々はラテン語由来で、日本語では「超」などの漢字がよく割り当てられます。

この「メタ」という言葉ですが、狭義には「ある対象を記述したものがあり、さらにそれを対象として記述するもの」を指します。例えば図形の性質を研究する学問が「幾何学」とすれば、幾何学を研究する学問は「メタ幾何学」

になります。もう少し具体的に言うと、「三角形の内角の和は 180° である」などというのが幾何学の命題で、「ユークリッド幾何学が無矛盾なら非ユークリッド幾何学も無矛盾である」などというのがメタ幾何学の命題になるという具合です。

このような狭義の意味での「メタ」は詰将棋にも当てはめることができます。つまり、各種の詰将棋についてその性質や関係などを考察することを「メタ詰将棋」と呼ぶわけです。ちょうど今募集している「フェアリー版迷宮の果てに」は、普通の詰将棋と協力詰という2つの世界が交わる領域についての研究です。従って、この企画は「メタ詰将棋」研究の一例といえることができます。また、第120回出題の解説では「持駒が多い=有利」かどうかという点から普通の詰将棋を協力詰・最悪詰・悪魔詰と比較しているのですが、これも一種の「メタ詰将棋」的な考察と言えるでしょう。ついでに言えば、最近の「神無一族の氾濫」で「ルール」ではなく「ルールの持っている性質」を指定して作品募集をしているのも、「メタ詰将棋」的な視点を少し意識しています。

普段フェアリーをやっていると「メタ詰将棋」的な視点で研究したり論評したりということは、特に意識することもないありふれた行為なのですが、フェアリーに携わる人が意識的に「メタ詰将棋」的な視点を持つようになれば、フェアリーに新たな展開が生まれるかもしれません。これは筆者の個人的な感覚かもしれませんが、近年のフェアリーは単に「新しいルールを考えましたよ」とか「こんなルールで作ってみましたよ」の繰り返しで、いつまで経っても草創期から抜けられない状態に陥っているように思えます。今はまだこの概念がモノになるかどうか論じる以前の段階ですが、「メタ詰将棋」からの視点がそんな閉塞状態を打破するひとつの鍵になってくれるのでは……と、そんな希望を抱いて筆者はこの文章を書いています。

さて、今回の出題は「氾濫 31」のお題である「非標準駒数のフェアリー作品」のサンプル第2弾です。受方の持駒の指定がありませんが、この問題は合駒が出ないので「受方持駒：なし」でも「受方持駒：無制限」でも好きなように解釈してください。

(担当：神無七郎)

Fairy of the Forest#21出題

- 2009年08月18日：課題発表：初形または詰上りが都玉（協力詰）
- 2009年10月15日：投稿締切
- 2009年10月18日：出題
- 2009年11月15日：解答締切
- 2009年11月18日：結果発表

■ 課題発表

秋の出題は、九州Gと同一課題になります。ということで、「初形または詰上りが都玉」です。

協力詰に適合しているかはどうかは分かりませんが、多数の投稿をお待ちしています。

■ 出題

前回は思いがけず10局もの投稿がありました。今回はわずかに4局。少々淋しいですが、短・中・長編が揃いましたので、それぞれ楽しんでいただけたと思います。

解答締切は11月15日（日）です。次回の作品課題も同時に募集しますので、解答と共に書き添えいただければ幸いです。下記宛メールにてお願いします。

酒井博久（sakai8kyuu@hotmail.com）

■ 21-01 雲海 協力詰7手

持駒 銀桂

■ 21-02 たくぼん 協力詰7手

持駒 なし

■ 21-03 神無七郎 協力詰23手

持駒 金4銀4香2

■ 21-04 雲海 協力詰75手

持駒 桂

第 14 回 WFP 作品展結果 担当 紅月花煉

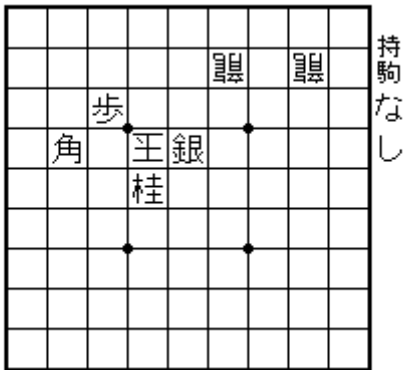
解答者：5名

全題正解者：市村道生氏 雲海氏 神無七郎氏
隅の老人B氏 たくぼん氏

【前置き】

今回は投稿数が少なかったのですが佳作3題の出品となりました。作者2名には感謝です！
解説の方ですが今期は迷宮に迷いこんでいまして全く手つかずでした……プレ短コンとか氾濫の創作、その他色々イベントがありこちらに余力手が回りませんでした……次回からは最大限努力します……

第1番 雲海氏作 協力詰9手



【作意】

53銀生 63玉 52銀生 62玉 72歩生
73金 同角生 72玉 82金 迄9手

【作者コメント】

攻方の連続生が狙いです。龍の配置が酷いなあ（笑）

【担当コメント】

見れば分かる不成4連発。龍の配置が苦しいですが仕方ないかとも思います

【短評】

市村道生氏：

連続不成に爽快な詰後感。作者の手遊び作品ですね

雲海氏：

やはり着手は生で統一した方が良かったかな

あ

神無七郎氏：

連続銀生は第一感でしたが、73金からの収束がすぐには見えませんでした。気付いてみれば不成4連発の気持ちいい手順

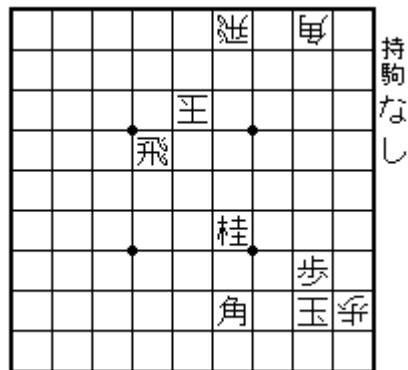
隅の老人B氏：

さすがに最後はムリでした。少ない配置駒で上手に作られています

たくぼん氏：

不成4連発！短編でも実に内容が濃い作品

第2番 雲海氏作 協力自玉詰14手



【作意】

26角 42玉 34桂 33玉 44角
34玉 66角 25玉 65飛 同角
26歩 同玉 48角 同飛成 迄14手

【作者コメント】

角の1回転を短編でしてみました。余詰防止だけの駒を置くこと無く出来たので概ね満足しています。底は浅いと思いますが、最後は連続捨駒だから解後感は悪くないかと。ちなみに1路右にずらせば、18歩は省けそうに見えますが、強力な余詰群が発生して、防止するために最低2枚置く必要が出てくるので、この図に落ち着きました。

【担当コメント】

どうでも良いですが本作品作者が解答時に手数を間違えるという珍事が……まあ、正解なので問題ないですが角の1回転が狙いの作品です。1×1で実現するのと2×2で実現するのには大きな差が

あります。本図は必要な配置だけがあり、非常にスマートな構図になっています。この狙いの決定版といっても良いかと思えます

【短評】

市村道生氏：

桂の消去に気付かず、終形の想定に腐心。48角の見事な動きが印象的です

雲海氏：

31角をなくして、64飛→74～94飛にする案もありますが、どちらが良いか未だに分かりません

神無七郎氏：

開き王手で角を17に飛ばして封鎖する筋を追っていたら作意に気付きました。角の周遊趣向だったんですね。自分も昔、斜め1マス分の角回転趣向をやったことがあるのですが

(http://www.abz.jp/~k7ro/overflow/hr14_r.htm参照)、

軌道が大きくなるほど作図の困難さも増します。そういう意味では本作の構図は割と軽くて、良い仕上がりだと思います

隅の老人B氏：

作者も最終図から、「さて」、でしょう？
「攻め方の角の動きが妙」、この一言を、雲海さんが待っている

たくぼん氏：

角がぐるっと1周するとは驚きの手順。17角と引く手が本命と思ったが大はずれ(泣)

第3番 たくぼん氏作 強欲協力詰77手

王	と							と	持駒なし
				香	香	香	香	香	
			歩	歩	歩	歩	歩		
		香	銀						
			銀						
	香	香	金					王	
と	飛	角	角	香	銀		香		
金	金		香	銀	飛				
歩	と		香		香	桂			

【作意】

91と 同玉 83桂 81玉 71桂成 同玉
62歩成 同玉 52歩成 同玉 42歩成 同玉

32歩成 同玉 22歩成 同玉 64銀 77金
12と 同玉 55金 67金 13歩 同玉
14歩 同玉 15歩 同玉 27桂 同杏
16歩 同玉 86飛 同桂 28桂 同杏
17歩 同玉 18歩 同玉 28飛 同玉
29香 同玉 38銀 同玉 47銀 49玉
58銀 同玉 59歩 57玉 58歩 同金
56金 同玉 65銀 同玉 68香 同金
66歩 同玉 75銀 同玉 86と 同玉
78桂 同金 97金右 77玉 78と 同玉
89金 同玉 88金 99玉 98金引 迄 77手

【作者コメント】

相変わらずの強欲ばか詰煙です。繋ぎの部分は相変わらず一本道ですが、考えどころは17手目64銀or12と、21手目55金、43手目の香先香歩の29香です。詰上りも普通詰将棋では余り見られない？形ですがどうでしょう

【担当者コメント】

正図に差し替えての解説になります。この作者でこのルールと言え言わずもがな「強欲煙」です。何時もルールならではの最終形を見せてくれています。今回は「金2枚」による詰上りです。序盤の所は一本道ですが、17手目にこっそりと1歩入手して21手目、金を何処に動かすかが最初のポイントです。此処で桂を入手する為に金を移動させておく必要があるのですが上辺に追い出した時に56金とする為に55にしておかないといけません。此処が個人的には最大の山だと思えます。後は、香先香歩という小技が入り流れるように収束します。適度な紛れと楽しめる伏線手が入った好作だと思います

【短評】

市村道生氏：

今度は小駒での煙。綺麗な手順が楽しめました。香先香歩など、昔懐かしい手順も出て来て、愛着を感じる作品です

雲海氏：

迷ったのは21手目の開き王手で金が動く位置と、43手目が香先香歩かどうかの2か所。前者は86飛と56金をするための伏線で面白く、後者も煙で見られる手筋とは思わなかったの嬉しかったですね。詰上がりも、普通詰将棋でも一応可能な詰め上がりですが、煙だと

Onsite Fairy Mate 第151回出題解答

開催日 : 2009年 9月 13日 (日)
 解答締切 : 2009年 10月 3日 (土)
 解答発表 : 2009年 10月 4日 (日)

神無七郎作
 対面協力自玉詰 18手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		王								一
		桂								二
										三
										四
										五
		桂								六
										七
								王	桂	八
					桂					九

攻方持駒 桂

受方持駒 角5

【ルール説明】

協力自玉詰 (=ばか自殺詰)

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

対面

敵駒と向かい合うと、互いに利きが入れ替わる。

【手順】

93 桂 92 角 82 桂成 同玉 94 桂 93 角
 72 桂成 71 角 81 圭 83 玉 82 圭 81 角打
 73 圭 72 角打 84 圭 82 玉 73 圭 同角
 まで 18手

この詰上がりは不可能だと思いますから、良いと思います

神無七郎氏：

56金が動いて飛筋を通す伏線にはすぐ気付いたのですが、64銀で1歩を入手する手は（作者の目論見通り？）素通りしてしまいました。最初は「11と」が「13歩」でないことが引掛かっていたのですが、この手を入れるためだったのですね。43手目29香の香先香歩も良い味付けで、楽しめる煙詰になっていると思います

隅の老人B氏：

初見した時に、「これは煙」と直観。あちこちで、たくぼんさんが伏線を張っていたものね。煙らない？、左下隅の駒も動かない。誤植？その内に訂正が載るさ、そうしたら、また考えよう、です。解図の時に、あちこちでオーバーラン？をしました。強欲、どちらを取るかでも、一苦勞。煙って快哉！、やっぱ煙は良いね。たくぼんさん、ありがとう

【総評】

市村道生氏：

（少し省略）年を取ると、頭の柔軟性に欠け、全く困ったものです。よく効く薬は無いですか？

* 実は私も新ルールは理解に時間が掛かります やはり、妖精の世界はルールに対する慣れと いうのが最も良い薬だと思います

雲海氏：今回投稿していなかったらと思うと・・・なんか怖い（笑）

* 暫くは自転車操業になりそうです……

神無七郎氏：

解図に掛かる前は雲海氏作が2つあって少し警戒したのですが、意外と易しくてほっとしました。これで安心して「氾濫」担当作業に専念できます（投稿よろしくお願ひします）

たくぼん氏：

出題数が少ないのはちょっと残念。新しい方の参戦に期待します

神無七郎 作

対面協力白玉詰 18手(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	馬	馬								一
馬	王									二
馬		馬								三
										四
	王									五
										六
								王	桂	八
				桂						九

攻方持駒 なし

受方持駒 桂2

【解説】

入門者向けの解説書でよく紹介される古典作品に「四桂の宣告」があります。4つの桂が塊りになる美しい形と、その塊りから離れた場所で玉が詰んでしまう奇妙な感覚のせいか、現代でも様々なアレンジが成され数多くの作品が生まれる人気テーマとなっています。桂以外にも同じ種類の駒ばかりで詰ませる詰将棋はあるのですが、やはり一番人気は桂でしょう。

ではなぜ他の駒ではいけないのか？ 玉と一種類の攻駒だけで詰型を作ることを想定して、理由を考えてみましょう。

理由1：詰まない

歩だけでは詰型を作れません。どうしても成駒の助けが必要になります。香は開き王手を利用した詰型を作れますが、香だけでは開き王手ができません。1枚を成駒にしたなら金が混ざっているのと実質同じです。

理由2：詰み易過ぎる

利きの大きい駒だと2枚で詰んでしまうため、同じ駒だけで詰ませても大して面白くあり

ません。「四銀詰」は銀の後ろの利きだけを利用することで4枚使う妥当な理由付けができますが、金だと後ろの利きだけを使っても2枚で詰んでしまいます。(だから「四金詰」は「四銀詰」に比べて人気が無い。)

詰上り玉位置を盤の隅や周辺以外に設定すると枚数を多く使う必要が生じますが、今度は配置がばらばらになって見た目が美しくありません。

理由3：駒数が足りない

角の場合玉が盤の周辺だと4枚、玉が周辺を離れた場合は5枚が詰ませるための必要枚数です。玉が隅にいて合駒が利かない状況ならば3枚も可能ですが、これは「作品」に仕上げるのは難しそうです。

また、空中の玉を桂だけで詰ませようとする6枚が必要です。「四桂の宣告」はあっても「六桂の宣告」がないのは単に駄洒落にならないだけではありません。

言うまでもなく、今回の出題作を作り始めた動機は「理由3」です。完全な一発芸ですね。対面ルールにしたのは角の発生を効率よく行うためだけで、詰上りには関係ありません。余詰消しのための配置も残念で、作品の出来には不満が残ります。

フェアリーは普通の詰将棋とは異なるルールで作品を作るわけですから、普通の詰将棋で「○○図式っていうのはあるけど、なぜ△△図式っていうのはないのかな？」などと考えると、自然に創作のネタが転がり込んできます。それが作品の価値に直結するわけではありませんが、「何か作りたいけどネタがない」などという時には有効な創作法のひとつです。上に挙げた「理由1」や「理由2」もその前提が成り立たなくなるルールがあるはずですので、皆さんもぜひ誰も見たことのない詰上がりに挑戦してみてください。

【正解者及びコメント】 (正解6名：到着順)

市村道生さん(初登場)

角5枚が最終局面のヒントになりました。手順は効率よく、美しい終形は未知との遭遇を彷彿とさせます。

☆ 何とあの市村さんから解答が届きました！
たくぼんさんが、市村さんの解答（おそらく他の WFP への解答と一緒に送られたものでしょう）の本サイトへの解答の部分をスキャンしてメールで送ってくださったのです。曰く、解答の中味を見ないようにするのが大変だったとか…

解答強豪の参加は心強い限りですので、引き続きの解答参加を心よりお待ちしております。たくぼんさんにもお手数をお掛けしますが、よろしくお祈りします。

雲海さん

これはなんといっても詰上がりがすごいですね。しばらく見惚れていました。
解く時は角の足りない分を銀で、桂の足りない分を歩で代用しましたが、慣れるまで解きづらかったです。

同時に創作も難しそうに感じました。 kifu for windows が使えないのが痛いです…

ところで、銀が入った四字熟語で思いついたのが、創棋会作品集の題名にもなっている「金波銀波」ですが、調べてもサイトによって載っていたり載っていなかったりとバラバラで厄介でした。

なお、調べている途中偶然みつけた四字熟語に「一六銀行」や「銀鱗躍動」といったものが見つかりました。

でも goo 辞書には載っていない…なぜでしょうねえ。

☆ 創作の方は f m があるので意外と困らないのですが、Kifuw で駒数オーバーの作が扱えたらもっと便利でしょうね。

「銀」の入った四字熟語は「金波銀波」がありましたか。これを忘れていた私は詰棋人失格！？

読者の皆さんの手間を省くため、ここで各々の言葉の意味を簡単に紹介しておきましょう。

金波銀波（きんぱぎんぱ）

月光に照り映えて金色や銀色に見える波。また、落日に照り映える光。

http://sanabo.com/words/archives/2003/06/post_2149.html

銀鱗躍動（ぎんりんやくどう）

魚がうろこを銀色に耀かせて生き生きと泳ぎ回ることから、勢いよく活動することのたとえ。

http://www.sanabo.com/words/archives/2003/06/post_2180.html

一六銀行（いちろくぎんこう）

質屋。1 + 6 = 7 のしゃれ。

http://www.sanabo.com/words/archives/2004/08/post_957.html

果たして「一六銀行」を四字熟語と言って良いのか分かりませんが、銀行の名称が元々番号制だったのを利用した洒落で、漢詩からそのまま持ってきたような言葉よりはよっぽど面白いですね。私も時々神無一六郎を名乗るのも良いかもしれません。

ちなみに「十六銀行」とすると実在の銀行（<http://www.juroku.co.jp/>）になってしまうのでご注意を。

隅の老人 B さん

大苦戦。原因は解く前に詰上がり図を想定したこと。下図を想定、ここから逆算を試みた。

対面協力白玉詰 18手（詰上り？）

											一
		馬									二
											三
											四
角											五
	王										六
							馬				七
						王	馬	王	桂		八
				桂				角			九

攻方持駒 なし

受方持駒 桂2

どうしても、18手では出題図に戻らない。
暇が出来ると（嘘、年中が暇）、また考える。
ついに、想定図を諦めて、あとは得意の闇雲
流。
執念、根気？で10月2日、ようやく解けた。
「ヤッター」。

☆ 詰上りに対面ルールをまったく使っていな
かったせいで、図らずも隅の老人Bさんを苦戦
させてしまいました。
隅の老人Bさんの想定された詰上り図は対面ル
ールから自然に想定できる真っ当なものであ
り、どちらかと言うと本作の詰上りの方が（対
面ルールとしては）邪道なわけで……
それでも解いてくる隅の老人Bさんの根気には、
敬服の他ありません。

橋圭伍さん

遠隔で取られる手順が意外でした 59 桂とかに
惑わされて接近する手順に悩まされましたで
も、桂とかの配置は無念の配置と見るべきなん
でしょうねえ。特に 18 桂は……

☆ 18 桂は本当に情けないのですが、16 とな
どに置き換えると玉を飛ばす筋の余詰が残りま
す。

59 桂配置も同様に玉が近づく余詰筋の防止で
す。角を発生させ易いようにと対面ルールを選
んだ副作用がここで出ています。

ちなみに、85 桂は駒種を減らして角5枚・桂
5枚という帳尻を合わせるためだけの配置
で、他の配置で代替することも可能です。
この辺りも本作はイマイチですね。

真Tさん

初形を見て難しそうと思っていたら、詰上がり
形がひらめきました。

5枚角の詰上がりいいですね。18 桂の配置が
ちょっと残念。

☆ やはり配置面で一番残念なのは 18 桂です
ね。まるで退路封鎖の駒に見えますから。
新々江氏の名作「純四銀詰」みたいに、初形に
角が1枚もなく詰上りは角と玉以外に何も駒が
無い「純五角詰」になれば良かったのですが、
理想と現実はあまりにも遠く離れています。
どなたかぜひ究極の「純五角詰」を！

たくぼんさん

狙いは看破し易いのでそれに向けての対駒角打
を考えると、心地よい解図感を味わえる作品。
取り掛かってみると面白い作品だが、ルール名
で尻込みさせる可能性が高いかも。
ちなみに最終手同玉と取って詰んだと解答書き
したのは内緒です。（安南ではなかった）

☆ そういえば、たくぼんさんは安南系が結構
好きですね。本作のような「同じ種類の駒だけ
で詰ませる」というテーマを安南で展開した
ら、どのような作品が生まれるか興味がありま
す。

既存作品では神無太郎さんの妖精賞受賞作（下
図）が一番それに近いのですが、何か新しい表
現があるかもしれません。

神無太郎/詰パラ415号/1990年9月 安南ばか詰5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
				継					三
							歩		四
						王			五
							飛		六
				傘					七
									八
									九

持駒 角2

☆ 現在「第31回神無一族の氾濫」に向けて
「非標準駒数のフェアリー作品」を募集してい
ます。駒数が標準と違っていれば、その他のル
ールは普通の詰将棋と同じでも構いません。

「六桂詰」とか「三枚馬鋸」など歓迎します。
次回の出題作品は未定ですが、もしかしたら今
回に引き続き「氾濫」向け作品のサンプルとして
の出題になるかもしれません。

（2009.10.4 七郎）

詰将棋メモ

推理将棋第 26 回出題解答

担当 タラパパ

出題日 : 2009年9月2日

解答締切 : 2009年8月20日

26-1 初級 ○術師さん作 システム失敗? 9手

「おかしいなあ、完璧なシステムのはずが9手で詰まされるとは」

「銀が真っ直ぐ動くのも必要な手だし、ツイてなかったね」

「ツイてないと言えば、大駒4枚全部先手の君のもので気分悪いな」

「せっかくもらったので、全部盤上に置いてみたよ」

「おかしいなあ、本家のシステムと何が違ったんだろうなあ」

(条件)

- ・ 9手で詰んだ
- ・ 終局時、大駒4枚全てが盤上の先手の駒だった
- ・ 銀が真っ直ぐ動いた

出題のことば (担当 タラパパ)

大駒を2枚取って2枚打つ。サービス問題なので、はじめはノーヒント。

追加ヒント:

大駒を取って打つ順番は、「取る、取る、打つ、打つ」です。

推理将棋第26回解説 担当 タラパパ

○術師さんの特集は、純粋に論理で解ける解答

者に優しい作品特集に。解答も18名と順調に伸びて好評でした。superkuppabrosさんと、ひつじさんが初解答と、嬉しいオマケ付きで、良問を寄せてくださった○術師さんに感謝。途中でヒントを出しましたが、その前に解答くださった方が多く、今月の作品にヒントは要らなかったのかもしれない。

推理将棋26-1 解答

- ▲7六歩、▽3四歩、▲2二角成、▽3二飛、▲同馬、▽7二銀、▲7一角、▽5二金左、▲4一飛 まで9手で詰み

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	角	王	飛	馬	科	皇		
二			馬	王		馬				
三	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩		
四							歩			
五										
六			歩							
七	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 なし

5手しか指せない先手が、大駒2枚を取って打つのですから、76歩、34歩、22角成(又は不成)までが必然。では飛車をどこで取るのか。82で取るなら打った角で取り、止めは31飛か71飛。しかし72銀、62金、61玉としても52を塞ぐ一手が足りません。飛車はどこかに動いて取られるのです。

また居玉の両脇に金をはべる形は、最終手大駒打ちでは単手数では詰みません。二段玉での詰上がりも無理なので、玉方の着手4手は、

- (1) 34歩、(2) 銀を立つ手、(3) 飛車を動く手、(4) 金が52に動く手に決まります。そして詰方の最終手は41飛か61飛。

とすると、条件「銀が真っ直ぐ動いた」を満た

す手順は一つだけ。もっとも、こうした論理で解くよりも、試行錯誤したほうが早そうですが。

作者 「2枚取るのはともかく、2枚使うのはどうしよう？といった感じでしたが、何となく形になりました。久保棋王が三間飛車でシステムの最近指しはじめたようで、私個人的には結構笑えました。」

■森下さんでなく？それは奇遇でした。

まさ 「方針が極めて立てやすい、易しい問題。」

■はい、初級にはもってこいかと。

ミニベロ 「あるようでない条件です。2条件9手ですから、最高の客寄せですね。」

■こういう作品がたくさんあると嬉しいのです。

渡辺 「玉の逃げ道を封鎖させない「銀真っ直」の条件がうまい。この条件により、任意の場所に打てたはずの角打が見事限定される。先手は飛角を取って両方打つしかないので、76歩、34歩、22角（不）成までは決定。5手目は角打か飛取だが、角打だと「銀真っ直」の条件に阻まれてアウト。よって飛取りで、76歩、34歩、22角成、32飛、同馬、が確定。よって銀真っ直は72銀となり、作意を得る。mixiとおもちゃ箱の9手では同一手順はないようです。」

■選題で一番苦労したのが、同一手順・同一条件のチェックでしたが、お二方のコメントで安心できました。

魚熊 「なぜか「大駒4枚」を「飛角4枚」と思いこんだため、はじめのうち「成る手なし」を前提に考えていたのでしばらくの間暗中模索でした。問題文を見直して成ってもいいことに気づいたら秒殺でした。」

■その条件は、まささん作にありますますが、そんな勘違いしてちゃ本局は永遠に解けませんよ（笑）

はらたつと 「最初、終局時盤上の大駒はすべて生駒「角・飛」でなければいけないと勝手に錯覚し、3手目22角生だと5手目入手した角で飛車をとりにいく順しかないなと思って検討しましたがダメ。その後、成・不成が条件に限定されていないとすれば22角成で次も飛車もとっていくしかないなということであとは一本道でした。」

■あらら、魚熊さんと同じ勘違い。推理将棋をやると自然に不成が常識になってしまう？

はてるま 「これはほとんど紛れの余地なし。明快でいいじゃないですか。本当に入門向き。」

■少ない条件で易しい作品、そこが貴重といえます。

リーグ戦ファン 「5手目までがほぼ必然。あと銀が直進するとなれば▽72銀しかなくて、残るは3手、詰め上がり図が殆ど頭のないままでも、一本道で解けました。所要時間1分。感覚不要のロジカルさ、ですね。最初の二条件だと無駄手の発生する詰め筋が2種類もある（先手72角+61飛まで、後手52金左・62金+先手41飛車まで）ので、いっぺんに解決する「銀が真っ直ぐ動いた」は実にエレガントな解決です。ただ、この条件だと後手の該当手が72銀しかありえないので、易しくしすぎてしまった気がします。

3番目の条件は、例えば、

「玉の頭に大ゴマ、という手があった」

「7手目に、6段目に成り返る機会があった」

「角の利き筋に大ゴマが進む手（打つ手でなく）があった」

「後手玉で先手駒を取る機会があった」等はどうでしょう。（それぞれ全部別の解。余詰多数かも）」

■大駒4枚が先手駒の条件で、思いの外たくさんありますね。でも4案とも、非限定を含む余詰を見つけました（笑）

斧間徳子 「非常に簡単でした」

■それを聞いて安心。

竹野龍騎 「簡単で客寄せにピッタリ。」

■はい、竹野さんもぜひこういうのを投稿してください。たまにはまた作らないと（笑）

S. Kimura 「飛車を取らせる手が△3二飛くらいしか浮かばなかったの、簡単に解けました。それにしても、三間飛車の「システム」というのが気になります。」

■先手大駒4枚だけなら、飛車を72で取らせる順も。森下システムの予定でしたが、久保システムだそうで（笑）

隅の老人B 「角を取ったら、飛車まで、くれた。気前が良いね、これで景気は上昇気流？」

■この一局が日本経済を救うのか！

鈴木康夫 「5手目までは必然ですね。」

■いいえ、ぜんぶ必然です（爆）

たくぼん 「大駒2枚の取り方はこれが一番効率的。これ以外だったら苦勞します」

■7手目に飛車を取る順が作意だと中級になりそう。

諏訪冬葉 「飛車の取らせ方に迷いました。」

■飛車をどこで取らせるか、極論すればそれが本局のすべてかも？

正解：18名

魚熊さん S. Kimuraさん 斧間徳子さん
superkuppabrosさん 鈴木康夫さん
隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん たくぼんさん
竹野龍騎さん 躑躅さん はてるまさん
はらたとさん ひつじさん まささん
○術師さん ミニベロさん
リーグ戦ファンさん 渡辺さん

26-2 中級 ○術師さん作 続・打歩のリクエスト 15手

「いやあ、歩を持ってくれたから打歩詰で反則勝ちかと思ってどきどきしたよ」

「気がついてよかったよ。歩を打つ場所と別のところで詰ましたし」

「初手はムリだけど、それ以降王手王手で追われて辛かったわ」

「成る手もなしに王手王手で追って、王手した駒は取られなかったからね」

（条件）

- ・ 15手で詰んだ
- ・ 15手目は打歩詰の局面だったが、打歩とは別の柁目に着手した
- ・ 初手以外、先手の着手は全て王手で、王手した
- ・ 駒は取られなかった
- ・ 成る手はなかった

※ もしも15手目に持駒の歩を打った場合、打歩詰ですが二歩ではありません。

※ 王手した駒＝王手の時に動かした（又は打った）駒です。

出題のことば（担当 タラパパ）

考えられる詰上がり玉位置は一ヶ所だけ。論理で追えて手数割に解き易い？

追加ヒント：

（1） 後手玉が取る最初の歩は「あの歩」しかありえません。更に一步取るのですが、さてどちらの歩？

（2） 後手玉は7段目で詰みます。

推理将棋26-2 解答 担当 タラパパ

▲7六歩、▽5四歩、▲3三角不成、▽6二玉、▲5一角不成、▽5三玉、▲6二角不成、▽6四玉、▲5三角不成、▽6五玉、▲6六

歩、▽7六玉、▲7八飛、▽8七玉、▲7七飛
まで15手で詰み

詰上り図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	一
	飛						馬		二
歩	歩	歩	歩	角	歩		歩	歩	三
				歩					四
									五
			歩						六
歩	王	飛		歩	歩	歩	歩	歩	七
									八
香	桂	銀	金	王	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

手数は長いのですが、条件が手を狭めていて、推理のし易さでは初級以上かもしれません。

キーはまず打歩詰。後手に歩を取ってもらわなければなりません。王手に突いた歩を同玉と取れるなら別ですが、それが叶わなければ最初に取りってもらうのは76歩、すると詰上がり玉位置も87しかなさそうです。後手が87へ行くのに、どうあがいても後手の指し手だけで7手かかります。

そして88歩が打歩詰ですから、ここから導かれる命題を整理すると、(1)86に先手角を利かせること、(2)76に逃がさないこと、(3)最終手が88への着手でないこと、(4)持駒に歩が残ること。ここに連続王手条件がありますから、77飛までの手順はほぼ必然。手順中、66歩が後手角の利きを消す一石二鳥の手で、ささやかながら実に気持ちの良い手でした。

作者 「打歩回避詰はシリーズ化してみたいのですが中々そこまですまきはいきません。あと・・・最後に気がつきましたが、会話の中に「15手詰」と書き落としていたようで、すみませんでした。」

■げげっ！ほんとだ。担当も気がつきませんでした、他で謳っていますから（汗）

ミニペロ 「「打歩詰ですが二歩ではありません」つまり先手の歩が取られるということ。連続王手だから玉で取る以外ない。ナイスヒントでした！」

■そ、そこはヒントではなく、問題文の補足なのですが・・・（汗）

まさ 「歩で王手せずに歩を取らせるには76歩くらいしか考えられない。駒を成らずに連続王手で玉を76方面に誘うには2手目54歩しかないので、手数は長いですが易しい問題でした。」

■15手ですが、難しい問題の時だったら初級で通じるかもしれません。

魚熊 「追加ヒントが出るまで、どこで詰ますのか全く見当がつかなかった。追加ヒントが出て、どこで詰ますのか分かったら、すぐできた。」

■今月はヒントが役に立たないかとも思いましたが、役にたってくれてよかった(^)

はてるま 「まず詰み形の推理、それから手順の推理・・・。どちらもほどよい思考で論理的に割り切れて、たいへん解後感良好。66歩が地味に後手の角道をふさいで一石二鳥の働きをしているのも良いです。長編を敬遠している人にもぜひ考えていただきたい。いい作品ですね。」

■後手角の利きを塞ぐ66歩、絶対の着手でありながらいい味を出しています。

リーグ戦ファン 「42で後手の合駒を取る方がいろいろ楽しみがあるようですが、それだと玉が6段目までしか来られない。75歩を取らせる筋をいったん考えてはみたのですが、明らかに無理。7段目まで呼び込む場合、玉の位置は87が好都合で、あとは86を押さえる為に角を53に置けば、これも一本道です。なんともロジカルです。」

■どなたもきっと、同じ道を辿って解決したような気がします。

渡辺 「「打歩と別の升目」がきわどい紛れをすべて封じていて巧い。53の角が良く利いています。パート1よりは解答者に優しくなっています。それでも解けたのは最後ですが…。最終手88銀でも詰むので、紛れ筋だと思ってしまったので…。打歩が二歩でないためには成禁条件から後手は先手の歩を取ったはずだが、3手目以降先手が指した駒は取れず、また移動合をしながら先手の歩を取るのもこの手数では難しいので、後手玉は先手の76歩を取ることが確定。あとは手順に玉を76方面に王手で追えば良いが、意外にしつこい紛れは、

・76歩、54歩、33角生、62玉、51角生、53玉、62角生、64玉、73角生
・76歩、64歩、33角生、42飛、同角生、52玉、51飛、63玉、61飛生で、どちらも76に追うことが出来て、玉頭に着手せずに詰むが打歩では詰まない。せっかく条件文と問題文が別々にあるのですから、条件文の方は
・初手以外、先手の着手は全て王手でしかも最後まで盤上に残ったの方が誤解ないかもしれません。」

■「最後まで盤上に残った」は、紛らわしさをなくす名案ですね。

斧間徳子 「当初、4手目に42飛（金、銀）として同角不成から持ち駒を増やす変化や、玉を45に持ってきて46歩、同玉（条件違反！）、35角、47玉、58金と詰ます筋などを考えた。66歩が好手。」

■「王手した駒は取られなかった」条件は、ご指摘の47で詰む筋を消すものでした。

竹野龍騎 「玉の一人旅で、爽やかな手順。最終手もシャレている。」

■一気の一人旅、爽快そのものですよね。

S. Kimura 「4段目に追い詰めるとばかり思っていたので、入玉するのは盲点でした。」

■Kimuraさん、最終手88の着手は条件違反ですよ～。うっかりしましたねえ（笑）

はらたっと 「3手目から不成の王手王手なので、角で中段まで追い出すしかなく、10手目ま

ではすんなり。あとは打ち歩詰の局面を考えると周辺に駒の利きがいっぱいあるように包めるのは玉は87が適当かなと考えるとスンナリとけました。」

■76～87への道に気付くかどうかという問題。「推理」の言葉がピッタリです。

隅の老人B 「遠く故郷を離れ来て、しみじみ知った祖国愛。王のぼやきが、目に浮かぶ。」

■いやあ、詩人ですなあ。

鈴木康夫 「終局図を良く確かめないと詰んでいるか安心できません。」

■大丈夫でした？（笑）

たくぼん 「考え始めたのが締め切り間際だったので、たくさんのヒントがあり助かりました。連続王手は気持ちよいですね」

■詰キストは連続王手に慣れているので、解き易いかと。

諏訪冬葉 「角で後ろをふさいで8段目に歩で打歩詰までは浮かんだのにそこにもっていくまでが一苦労」

■一苦労でも、楽しい苦労ではありませんでした？

正解：17名

魚熊さん 斧間徳子さん superkuppabrosさん
鈴木康夫さん 隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん
たくぼんさん 竹野龍騎さん 躑躅さん
はてるまさん はらたっとさん ひつじさん
まささん ○術師さん ミニベロさん
リーグ戦ファンさん 渡辺さん

26-3 上級 ○術師さん作
毒入り危険 11手

「9手目に突いた端歩は毒まんじゅうでしたか」

「直後に玉でそんなもの取るから、すぐ詰みましたよ、はい11手まで」

「3手目から6手目まで同じ筋だったのはこだわりすぎですかねえ」

(条件)

- ・ 11手で詰んだ
- ・ 9手目に指した端歩を10手目に玉が取った
- ・ 3～6手目は全て同じ筋の指し手だった

出題のこぼ (担当 タラパパ)

玉が端に行くのに最低4手。しかも端歩を玉で取れる。詰上がり形の予想がすべて。

追加ヒント：

- (1) 最終手は先手の香の利きを塞ぐ駒が動く手。空き王手？それとも両王手？
- (2) 後手玉が取った端歩は9筋の歩。

推理将棋 26 - 3 解答 担当 タラパパ

- ▲ 9六歩、▽ 6二玉、▲ 7六歩、▽ 7四歩、
- ▲ 7七桂、▽ 7三玉、▲ 9七角、▽ 8四玉、
- ▲ 9五歩、▽ 同玉、▲ 7五角 まで11手で詰み

詰上り図

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	
二		飛						馬		
三	歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	
四			歩							
五	王		角							
六			歩							
七		歩	桂	歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八								飛		
九	香		銀	金	王	金	銀	桂	香	

持駒 なし

端に行く手数を数えると、76歩、42玉、33角、同玉（これは無理）以外の手順では、玉が端に行くだけで5手かかります。

2段目まで先手が歩を伸ばすことはありえないので、玉の行き先は3段目から5段目まで。

さて先手の着手はどうでしょう。条件から端歩を取らせるには、少なくとも端歩を2回以上突き、最後に香の利きを塞いだ駒で、開き王手又は両王手に仕留める手順しかありません。そんなことのできる駒は角か桂馬。最終25桂で詰む形は作りようがない。こう考えていくと、玉は73から抜けて93～95で詰む筈。

3～6手目の後手方の着手は74歩と73玉。これらを踏まえて先手の着手を数えると、(1) 香頭を塞ぎ最後に動く手で2手、(2) 7筋の手で2手、(3) 端歩を突く手で2手と決定。玉の行き先も95に決まります。

この条件に合致する形は一つしかありませんが、推理将棋独特のサーカス的な詰上りを簡単に予測できたでしょうか？

明快な条件に、ツボにはまった詰上りの好局でした。

作者 「推理将棋では自陣の駒がそのまま働くケースは主に飛角、あっても桂歩くらいですので、なんとか香を主役に見てみたいくてこのような手順としました。詰め上がりで玉に接触している駒がないのが少し気に入ってます。」

■詰上がりは、発表された中では新しい形です。素敵な詰上がりでした。

ミニベロ 「端の香を利用した開き王手詰みは、意外と作図例は多いのですが、本局は一番シンプルに仕上がっています。」

■そうですね。手数+2条件での手順成立は見事だと思います。

まさ 「これも端を取らせて75角（馬）までは第一感（けいたん氏作おもちゃ箱第11-3など）なので、とても易しい問題でした。少ない条件

でうまく限定していると思います。以上、久々に解答しました。最近では難問が多く手が出ませんが、このくらいの難度が良いですね。」

■「難問で手が出ない」は、眉に大唾つけて聞いておきます。選題者としても、隔月程度にこれくらいの難度で揃えたいのですが。

魚熊 「10手目に端歩が取られたのに11手目に詰む以上、最終手で8手目に王がいたところを香筋を遮断していた駒が移動して押さえられないといけない。そのためには遮断駒は角が必須。角の横を埋めるために桂を跳ねる必要があるが、それは「3-6手目の4連続同じ筋」にぴったりだ・・・というわけで、詰み形は容易に想定できたのですが、当初は1筋側で考えていたために手数不足に。ふと9筋に目が行った瞬間に解決しました。というわけで、上級問題ですが私にとってはこれが最初に解けてしまったのでした。」

■初級よりも先に？げげっ！「最終手で8手目に王がいたところを香筋を遮断していた駒が移動して押さえるのが必須」たしかに。

はてるま 「ふわっと浮く75角の手触りが抜群。美しい詰め上がりです。「3手目～6手目と同じ筋」という条件がなかなか凝っていて、簡素な条件にうまくまとめていると思います。露骨に「玉が4連続動いた」などの条件で妥協しないのがいいですね。」

■「玉が4連続動いた」だと、もう1条件が要るのに対して、「3手目～6手目と同じ筋」ならこれ以上要りませんものね。

リーグ戦ファン 「後手玉が端に来るまで4手、歩で道を作るので手順に余裕なし。3-6手目が7筋が本線で、同時に77桂を85に利かせる詰め上がり図を想像、結局、詰め上がり図から考えたのか手順から考えたかのかが自分でも分からないくらいでした。所要時間2分。ロジカルに解いても形の感覚から解いても易しい問題で、この問題は初級で十分でしょう。」

■合い効かずの独特の詰め上がり。推理将棋慣れしていない方には、それを発想すること自体が難しい気がして（汗）。

渡辺 「85の塞ぎ方に思案するが77桂というのが面白い。最初の条件からタラパパさんの75角両王手を思い浮かべますが、次の条件を見て「あれ？」となりました。条件から3～6手目の筋が（鏡像を除いて）決定する。玉が端歩を取るには後手が指せる5手中4手必要。4/6手目と同じ筋だからどちらかは無駄となり、2/4/8/10手目か、2/6/8/10手目で玉は端に向う。となると3～6手目は3筋または7筋だがこの筋を先手が連続で指して詰みに役立つには桂馬を跳ねるしかない。こう考えることが出来れば、17桂が出来ないので9筋に決定し、しかも懸案の85が塞がれているので作意が見える。」

■実は私も投稿作品を見た時に、75角両王手だと思って面食らいました（笑）しかし拙いぞ、解説よりも論理に説得力がある（汗）

斧間徳子 「”3手目から6手目まで同じ筋だった”という条件がうまい。上級とのことですが、中級（26-2）よりも簡単でした。」

■中級と上級、どちらにするか悩んだのですが、長編も決して難しくないことをアピールできるかな？と。

竹野龍騎 「詰み形が見えてすぐに解けました。玉の周りに駒が居ない空中捕獲。」

■玉の周りに駒が居ないことに、今になって気付きました（汗）しかし気分のよい詰め上がり。

S. Kimura 「”同じ筋”とは7筋であることが想像できたので、▲77桂から▲75角とするのは割と簡単に分かりました。」

■7筋がぱっと閃いたなら、あとはちょいちょいですな。

はらたつと 「実はこれがイチバン最初に解けました。詰め上がり場所が想像しやすかった。3～6手目同じ筋は手順前後を限定してると考えると7筋しかありえなく一直線でした。」

■はらたつとさんも最初だとすると、こちらが初級でもよかったのかなあ？

隅の老人B 「まずは、詰手順をこしらえる。続いて、条件文を作製。どちらが難しいのかな、術師さん、教えて。」

■普通は条件文のほうが厄介です。なにしろ思いもよらない余詰との戦いですから。

鈴木康夫 「空き王手出来るのは角しかないと分かればすぐでした。」

■空き王手で桂馬が捨てられたらスイリストには一瞬なのかも。

たくぼん 「これもヒントを頂いて一撃でした。(ちょっと楽しすぎか?) この詰上りが3条件で成立とは好作です。」

■手数を除くと2条件、これ以上望めない出来でしょう。

諏訪冬葉 「”85に逃がさないために75には馬が必要”と考えて手数不足。桂馬置いておけばよかったのか・・・」

■なあるほど!条件を変えると75馬迄の筋でも出来ますね。

正解：18名

魚熊さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
superkuppabrosさん 鈴木康夫さん
隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん たくぼんさん
竹野龍騎さん 躑躅さん はてるまさん
はらたっとさん ひつじさん まささん
○術師さん ミニベロさん
リーグ戦ファンさん 渡辺さん

総評など

ミニベロ 「おもちゃ箱の飛び先が間違っているようなので、私は裏口から入りました(笑)。」

■はじめリンク先がおかしかったんですね。あの時は私も裏口から(笑)

リーグ戦ファン 「○術師さん、とにかくロジカル。私の解法とは波長が合います。これだけロジカルなパズルをしっかり作られるのは、すごい才能だと思います。ただし、最初の条件から想像させた本線で決まってしまう「楷書」スタイルなので、ひねくれ者でもう少し苦しみたい私からすると、もう少しクセがある方が実は嬉しいかも。」

■ロジカルな作品で、少ない条件に収めるのは簡単ではありませんから、作者の力は確かです。○術師さんの投稿には「草書」スタイルもあるのですが、今回は解答者に優しい「楷書」を選ばせて貰いました。

躑躅 「先月は時間もなく1題も解けませんでした(締切後、解答発表までに25-2だけは解けました)、今回は3題とも一目で解けました。」

■ひと目ですか。もっと長く楽しめるほうがよろしいですか?(笑)

はらたっと 「追加ヒント、今回はすでにてでいたんですね。一応、自己申告でしかありませんが、追加ヒントなしで全部わかりました。○術師さんとは相性がいいのかも。(笑)あとから追加ヒントを見て、なるほどむふふ・・・2度楽しめました。」

■3粒で6度美味しい推理将棋コーナー。

隅の老人B 「年金生活、いつも暇、推理将棋を考えよう。苦手な推理将棋ですが、今月は何となく、早く解けた気がします。いつも締め切りギリギリの解答ですが、今月私としては、めずらしく早いかな、と思っています。」

■同じ立場のようで(笑)ヒマな割に、することはたくさんあるのが不思議ですが。

superkuppabros 「将棋のサイトを見ていて、面白そうなのでやってみました。今回が初めてですが、解答したいと思います。推理将棋は初めてでしたが、普段の将棋とはまた少し違って

面白かったです。初めてでしたので、1番の71角にやや迷いました。3番の桂馬が動くのになかなか気づかなくて苦戦しました。」

■え～、推理将棋をすると棋力が落ちるという噂です。どんどん弱くなってください。それと共に推理将棋が強くなるかと（笑）

鈴木康夫 「追加ヒントを貰う前に解いていたのに、短評を考えている間に投稿しそびれてしまいました。」

■詰パラの通年解答を目指した頃に、全部解いて短評を考えているうち、~~メ~~切に間に合わなくなったことがありましたっけ。

ひつじ 「推理将棋、はじめて解いてみました。友人の出題だったのがきっかけです。最初はとっつきづらかったのですが、慣れると面白いですね。」


■いやあ～、面白い世界ですよお。これからも解答をよろしくお願いします。

推理将棋第26回出題全解答者： 18名


魚熊さん S.Kimuraさん 斧間徳子さん
superkuppabrosさん 鈴木康夫さん
隅の老人Bさん 諏訪冬葉さん たくぼんさん
竹野龍騎さん 躑躅さん はてるまさん
はらたとさん ひつじさん まささん
○術師さん ミニベロさん
リーグ戦ファンさん 渡辺さん

当選： 鈴木康夫さん


迷宮の果てに




迷宮の果てについて知りたいんですか？ いいわ調べてみましょう



…むかしむかし 太平洋には
ムーという大陸がありました



「迷宮の果てに」
はその大陸では
「アメーバ」という
意味だったそうです



な なんだって～！！

フェアリー版 迷宮の果てに(結果稿)

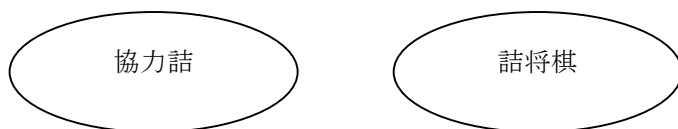
協力詰（ばか詰）でも普通の詰将棋でも同一の解が正解となる詰将棋を作れ

募集期間：2009年9月29日～10月15日

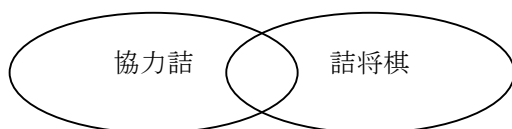
(募集企画ページ：<http://www.abz.jp/~k7ro/EndOfFairyLabyrinth.html>)

前号のWFPで掲載された「フェアリー版・迷宮の果てに」は、元々は単なる読み物としての投稿だったのですが、成り行きで「フェアリー版・記録に挑戦」の第3弾として具体的な図を募集することになりました。幸い、お二人の方から実際に投稿があったので、ここでは投稿された図の紹介と解説をしたいと思います。

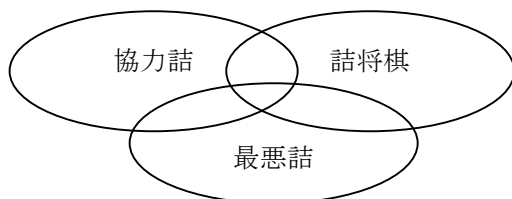
解説を始める前に、ちょっとここでこの企画について補足をしたいと思います。ご存知のように協力詰(ばか詰)は受方が攻方に協力する詰将棋で、受方が攻方の目的を妨げようとする普通の詰将棋とはルールが異なります。単純に言えば別世界ですね。



でもこの2つを上のような図で表すのはちょっと不十分です。同じ図が両方の世界に属する場合もあるので、両者の関係をより良く理解するには、集合論でよく出てくるベン図のように表す方が適切でしょう。



今回の企画は単純に言えば両者の交わりの部分に属する作品の発掘なのですが、ここで第3のルールに登場して貰いましょう。「攻方はなるべく詰まないように王手をし、受方はなるべく詰むように応じる」というヒネクレ者、「最悪詰」です。



更に第4のルール、「悪魔詰」(攻受共なるべく詰まないように指すルール)に登場して貰っても

良いのですが、ただでさえややこしい話をもっと混乱させるので、この辺でやめておきましょう。

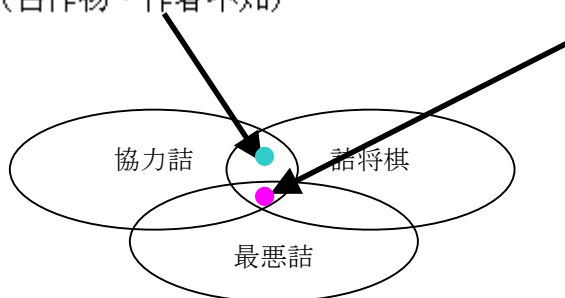
ここで「フェアリー版・迷宮の果てに」で紹介した2つの作品——有名な古作3手詰と玉野忠捨作一本道詰将棋——が、この図のどこに位置するかを書き加えてみます。

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			銀	王	銀				▲銀
				と					一
									二
									三
									四
								角	五
									六
									七
									八
									九

(古作物・作者不知)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
銀	王								▲なし
	馬		銀				と		一
香	桂	歩	香					王	二
銀	と		銀	香	香	香	香	角	三
	香			香			歩	王	四
	皇				飛	王		王	五
歩		香	金	歩		王		香	六
	歩	桂	桂	桂				歩	七
飛	香							香	八
									九

(玉野忠捨 作 1981年6月 詰パラ)



玉野忠捨作は3者が完全に交わる領域に属します。それどころか、この図に「悪魔詰」を加えても玉野忠捨作は4者が交わる領域に属するのです。

一方、有名な古作物3手の方は協力詰と普通の詰将棋とは交わり、最悪詰とは交わらない領域に属します。

ここで、今回の課題設定をもう一度見直してみましょう。

【問1】

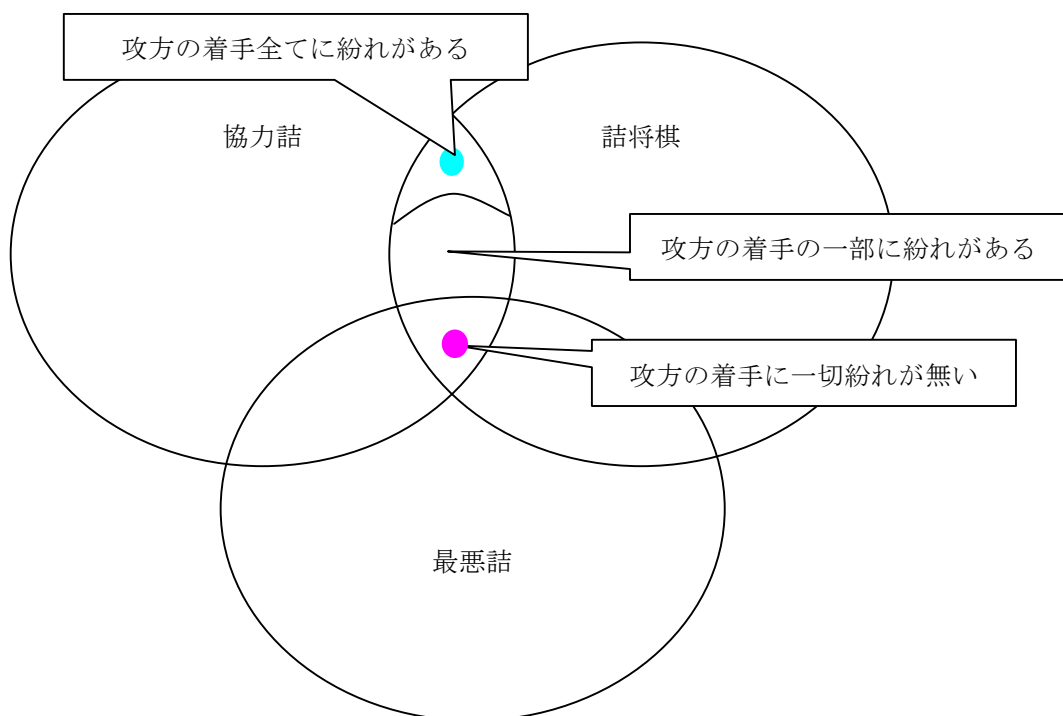
普通の詰将棋と協力詰の両方のルールで同一の解が正解となる図を示せ。

【問2】

普通の詰将棋と協力詰の両方のルールで同一の解が正解となる図を示せ。

ただし、すべての攻方の着手に正解以外の紛れがあること。

【問1】は特に条件がないので、両方の図が当てはまります。大部分は一本道詰将棋で、一部だけ紛れがあるような作品でも構いません。【問2】は例の古作物3手の方が当てはまるのですが、「すべての攻方の着手に紛れがあること」という厳しい条件が付いています。つまり協力詰と普通の詰将棋の共通する領域を更に分けているのです。



この図に水色で示した領域にあるのが例の古作物3手、赤紫で示した領域にあるのが一本道詰将棋ですね。この図に対し、「他の領域はどうなっているの?」とか「他の観点でも内部構造を分類できるのでは?」といった考察も可能ですが、それは別の機会に譲りましょう。

また、今回一番心配していたのが、両者の中間に当たる領域——攻方の着手の一部に紛れがある——に属する図の投稿があるかどうかでした。「一本道詰将棋のマイナーチェンジでは意味が無いのではないか」とか、「紛れがあってもなくても良いというのは中途半端」などと思われて、創作意欲が湧かないのではないかと心配したのです。事実、この分野は締め切り最終日までは投稿0の状態だったのですが、最終日に大きく事態は変わりました。

前置きが大変長くなりましたが、いよいよお待ちかねの投稿図紹介です。

1. 【問2】への投稿

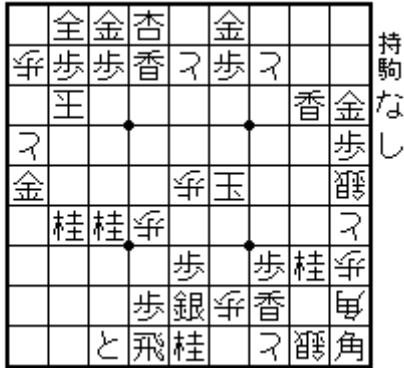
【問2】へは、たくぼん氏、橘圭伍氏のお二人から投稿がありました。最初の投稿はたくぼん氏で、Onsite Fairy Mateで企画ページを立ち上げた当日でした。手数は23手。実を言うと、その図には条件を満たさない（作意以外の攻方の紛れが無い）箇所が1つあったのですが、作者も投稿を受けた筆者も気付いていませんでした。同じ様なミスは橘圭伍氏から投稿を戴いたときもありました。言い訳になりますが、とにかくこの条件は協力詰がやたら余詰みます。そのため協力詰で余詰

が出なかったら、ついつい安心してしまい、紛れに関する条件を失念してしまうことになり易いのです。(もちろん慣れればそんなミスもなくなります…)

では、お二人が最終的に達成された最長手数 of 図を見て戴きましょう。

橋圭伍氏作

詰将棋・協力詰 27 手 (2009 年 10 月 5 日投稿)



94 金 73 玉 84 金 63 玉 74 金 53 玉 64 金 43 玉 54 金 33 玉

44 金 24 玉 34 金 25 玉 35 金 26 玉 36 金 27 玉 28 歩 38 玉

47 銀 49 玉 67 桂 59 飛 同飛 同玉 69 飛 まで 27 手

【作者のコメント】

前回同様、前半 20 手+後半 7 手の構図で完全に独立しているので後半さへ伸ばす事が出来れば更なる更新も十分に可能はずです。9 手収束位作れそうな物なんですが……

作者の言葉にもあるように、金による横追い・縦追い、そして収束のパーツの独立性が高く、発展性を感じる作品です。特に巧妙なのが右下隅の 18 角の配置。暴れやすい金の縦追いコースを限定し、最終的にこの角の利き筋で 36 地点に釘付けにします。そのおかげで、収束の自由度が増しています。

橋氏は早くからこのテーマに興味を示され、9 月 26 日のブログ記事では早くも 17 手の図を得たことを報告されています。募集開始後、10 月 2 日に最初の図の投稿 (25 手) があり、その後 3 度の改良でこの図に到達しています。当初は「最終手からの収束余詰は不問とする」という詰将棋の慣習に依存した収束でしたが、それも最終図では解決されています。(筆者個人としては、今回の企画の趣旨から言ってこの慣習を適用することは全然問題ないと思っています。なぜなら本来比較すべきは、協力詰と普通の詰将棋というより、協力詰と「攻方最短・受方最長が厳密に適用されるルール」だからです。収束余詰は「攻方最短」に反するためそのようなルールでは誤りとして除外され

ます。)

その後記録は 29 手まで伸びたとブログで報告があったのですが、その図の投稿は載いていません。更にそれを上回る記録が報告されてしまったからでしょうか？ もし不都合でなければその図も見たいと思います。

次はたくぼん氏投稿の最終図です。

たくぼん氏作

詰将棋・協力詰 31 手 (2009 年 10 月 12 日投稿)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
王		金							▲なし
	香	王				銀			一
							銀		二
	桂			飛	香	香			三
	香	香			馬	馬			四
銀		歩	歩	歩	歩	歩	歩		五
桂	桂							歩	六
							馬	香	七
金	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		八
									九

81 香成 92 玉 82 杏 93 玉 83 杏 94 玉 84 杏 95 玉 94 杏 86 玉
98 桂 77 玉 88 金 67 玉 78 金 57 玉 68 金 47 玉 58 金 37 玉
48 金 27 玉 38 金 17 玉 28 金 16 玉 17 香 25 玉 14 銀生 24 玉
23 銀引成 まで 31 手

【作者のコメント】

1 手更新できました。

橘さんが 29 手まできたとの事で作図再開しました。

ちょっと考えたらあっさり更新。シンプルな逆算がありました。

32 手にも出来ます (後手 92 玉、先手 91 飛型 32 手) が、否定的な方もいらっしゃるのとおりあえず参考図としておきます。

今回見事最長手数を達成された図です。構成はとてもシンプルですが、橘氏作と縦追いと横追いの順序が逆になっており、その分盤を隅から隅まで使えたのが長手数達成の要因でしょう。

この図で筆者が特に面白く感じたのが 9 手目 94 杏とするところで、85 杏と香を取る紛れです。この紛れは普通の詰将棋だと手数に依存しない完全な不詰、協力詰だと手数オーバーによる逃れと

なり、その紛れが成立しない理由が異なっています。収束の残り手数の短い箇所でのこのような現象が起こるのは珍しくありませんが、手順の頭の方で紛れ手順不成立の意味付けの分岐が起こるのはなかなか味わいがあります。通常の観点からは「普通の手」でも、この企画の観点からは「妙着」となるわけです。

たくぼん氏からも今回の最終図を得るまで、5回の投稿を載っています。回を経る毎に徐々に発展・洗練されていく様子をほぼリアルタイムで見られるのは面白かったです。この種の企画における担当者特権ですね。

さて、結局今回の【問2】に関する記録は、31手。参考記録32手（受先）でした。いずれも達成者はたくぼん氏です。

2. 【問1】への投稿

前置きにも書いたように、投稿が寄せられるか心配したこの分野。参考図として紹介した玉野忠捨氏作があまりに出来が良すぎたために、果たしてそれを上回る作品ができるのかどうか危ぶまれていたのですが、締切り当日になって初めて投稿が寄せられました。しかも単に記録を破るだけでなく、この課題を達成するには「一本道詰将棋+α」しかないという先入観を覆す作品です。

たくぼん氏作

詰将棋・協力詰 53手 (2009年10月15日投稿)

9	8	7	6	5	4	3	2	1		
				と	と		と		一	▲
						争		争	二	歩
			と	争			争		三	
と	と	と			香	歩		香	四	
争	銀				香		争		五	
驥	驥		争	王					六	
	争		角	桂		角			七	
				歩	飛		マ		八	
駒	王	桂	マ	駒	香	桂	マ	駒	九	

36飛 57玉 56飛 68玉 58飛 77玉 78歩 同桂成 同飛 86玉
 76飛 97玉 96飛 同歩 98飛 86玉 96飛 77玉 76飛 68玉
 78飛 57玉 58飛 46玉 56飛 37玉 36飛 28玉 38飛 17玉
 18飛 26玉 16飛 37玉 36飛 28玉 38飛 17玉 18歩 26玉
 36飛 15玉 16飛 24玉 36桂 34玉 35歩 33玉 43香成 同金
 同香成 同玉 44金 まで 53手

これまで紹介した作品が、金追いや歩突きによる単方向の追い手順を主体とし、その効率的な組

み合わせと細かい工夫の付加により長手数を達成していたのに対し、その作品では飛迫いによる回転型の迫い手順で長手数を達成しています。つまり知恵の輪型の機構が適用可能ということですね。39 手目 18 歩で無限ループを避ける場所など、まるで通常の長編作品を見ているかのようです。(例えば「おもちゃ箱」の「くるくる展示室」であれば、普通に出題されていてもおそらく誰も不審に思わないでしょう。)

この作品の生まれた経緯について作者から詳しく教えていただいたので、ここに紹介します。

【作者のコメント】

実は作図に取り掛かったのは 13 日になってから。

まだ 1 作も投稿がないのでちょっとだけのチャレンジ精神でした。

とりあえず玉野氏作を並べて、同様の一本道でチャレンジするも玉野氏の手数にまったく近寄らず。方針を変えて問 2 の作品を改良する方向でいってみました。

しかし金迫いは収束で金の押し売りで実に余詰やすく手数が伸びず。

しばらく放置していましたが、ふと飛迫いはどうだろうかと考えました。

昔アンチキルケばか詰で似たようなものを創ったことがありましたので手が狭く一本道に近い手順が得られそうと感じました。

やってみると 30 手台半ばの手数まですぐに行きましたが、ここらから壁にぶつかりました。

出来れば右端から飛で追って (17 玉型で 16 飛、28 玉～) 左端で U ターンできれば手数が伸びるのですが、歩を 1 枚取って右端から下に追うところで手順がかぶってしまい。いきなり 38 飛に 26 玉と逃げられてかしこ詰の方が不詰となるのです。

ここらからとにかく思いついては調べ、また並べ替えてと堂々巡りの繰り返し。

14 日現在では 37 手でした。締切最後の 15 日、早朝に収束で 36 桂と跳ねる手を発見して何とか 43 手に到達。やっと玉野氏作に追いつきました。その後 86 桂配置を発見して 45 手となり、玉野氏超え！

ここらで打ち止めと思い、かしこ詰を柿木で検討するとなんと迂回手順があることが判明。それを調べているところ 18 と配置にすれば 27 角の周りをもう 1 回転することがわかり万歳です。手数は 50 手も超えて 53 手！この時点で夕方 5 時過ぎとなり投稿となりました。全く望外の結果で作者である自分も驚いています。

【問 1】への投稿は結局これひとつでしたが、変化が一切あってはならないという厳しい条件の下でも、いろいろな技法が適用可能であることを示した意味で、本作は大きな収穫だったと思います。

本作で一本道詰将棋の呪縛から解放されたので、今後も記録が更新される可能性は大きいですが、とりあえず現在の【問 1】の記録は 53 手。達成者はたくぼん氏です。

3. あとがき

今回の作品募集ではどちらもたくぼん氏が記録を達成されました。短期間の募集のためあまり作品は集まりませんでした。こんな厳しい条件でも作者の創意工夫を盛り込めることを十分に示す図が集まったと思います。ただ、記録自体は【問1】【問2】共まだまだ更新が可能だと思うので、今後もこの分野の研究が続けられることを期待します。筆者も今回は「担当」に回ってしまったので参加できませんでしたが、目下の作業（「氾濫 31」の原稿作成）が一段落したら改めて挑戦してみたいと思います。

一方、この企画は「解答募集に適さない」という大きな弱点もあります。何しろ変化が全然なく、紛れも極力抑制しなければいけないからです。こうした企画は従来の「作者は作品を出題し、解答者がそれを解く」とは違った運営モデルが必要ですね。

(おまけ)

機会があれば普通の詰将棋、最悪詰、悪魔詰を f m で協力詰として解いてみてください。ほとんどの場合、膨大な解が出力されて使い物になりませんが、それらの解の中には本来のルールで解いた場合に「正解」となる手順が必ず混じっているはず。あたかも f m がそのルールで解いているように見える図を作るにはどうすれば良いか……今回は普通の詰将棋を例に取りましたが、最悪詰や悪魔詰にターゲットを変えればまた違った結果が得られるでしょう。そんな妙なことに関心を持つ人は相当限られていると思いますが、単純に特定のルールの作品を作るだけでなく、そのルールが持つ特徴を浮かび上がらせるような作品を敢えて作る、そのような試みをもっと成されて良いと思います。

(2009年10月17日 神無七郎)

妖精賞の系譜 (4)

前回に続き、今月は第7回の妖精賞受賞の作品を紹介していきたいと思います。選考は第1回～4回までが読者投票によるもので第5回以降は担当者の独断で決定となっています。今回より担当が菊田氏より筒井浩実氏に替わりしました。

第7回 妖精賞 (1994年)

この期は担当者の筒井浩実氏の選考で受賞作が決まりました。

【短編部門】

該当作なし

【担当者コメント】

9月号山田・菊田合作が良かったと思いますが、テーマがぼけてしまったので見送りとしました。

【中編部門】

詰将棋パラダイス 1994年8月号
岩本修 作 安南詰 19手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	一
									二
			王						三
									四
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀4

52 銀 同玉 63 銀 53 玉 54 銀成 43 玉
44 歩 33 玉 45 銀 23 玉 33 歩成 同玉
34 歩 23 玉 33 歩成 同玉 34 銀打 22 玉
33 銀成 まで 19手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	一
							王		二
						全			三
				全					四
歩	歩	歩	歩	歩	銀		歩	歩	五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

受賞理由 (筒井浩実)

美しい初形と好手順で、文句なしの傑作でしょう。

解説 (筒井)

一見して、解いてみたくなる初形ですが、銀を銀として使いにくいので、詰めにくかったかと思えます。

作者

54 銀成～44 歩の手順を見つけて、54 銀成以前を逆算、44 歩以降を正算でまとめてみました。

塩田洋

この初手が入って逆算大成功。

駒井信久

54 銀ではなく 54 成銀にすることによって 44 歩が可能になるというからくりで脱帽。初形、持駒の趣向まであって、鑑賞に堪える名作。

★ 54 銀成～44 歩の順が秀逸です。44 歩を同玉と取ると 36 銀、33 玉、44 銀、23 玉、24 歩以下早詰です。作者にはたまに会合でお会いしますがこんなに妖精賞を受賞されていたことを今回調べて初めて知りました。前年に続いて2期連続中編賞の受賞です。ぜひ復活して欲しい作家ですね。

【長編部門】

詰将棋パラダイス 1994年6月号
神無七郎 作 対面ばか詰 73手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					歩		歩	王	一
							王	銀	二
							歩		三
					金				四
									五
									六
									七
									八
銀									九
	ス								

持駒 銀

- 99 銀 87 馬 88 銀 76 馬 77 銀 65 馬
- 66 銀 54 馬 55 銀 43 馬 44 金 54 馬
- 45 金 65 馬 66 銀 54 馬 55 金 65 馬
- 56 金 76 馬 77 銀 65 馬 66 金 76 馬
- 67 金 87 馬 88 銀 76 馬 77 金 87 馬
- 78 金 98 馬 99 銀 87 馬 88 金 98 馬
- 89 金 87 馬 88 金 98 馬 78 金 87 馬
- 88 銀 76 馬 77 金 87 馬 67 金 76 馬
- 77 銀 65 馬 66 金 76 馬 56 金 65 馬
- 66 銀 54 馬 55 金 65 馬 45 金 54 馬
- 55 銀 43 馬 44 金 54 馬 34 金 33 桂
- 22 金 21 飛 12 金 同玉 22 歩 11 玉
- 12 角 まで 73 手

詰上図

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					歩		銀	王	一
						王	歩	角	二
						歩	歩		三
									四
				銀					五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

受賞理由 (筒井浩実)

このような易しく楽しい作品をもっと高く評価して欲しいという気持ちを込めて選んでみました。

七郎氏解説

手順を一見すると馬鋸のように見えますが、実は鋸を引いているのは金。馬と銀は開き王手の形を作るため、ごちゃごちゃと動いているだけなのです。昨年9月の「汎濫」14番を複雑化した趣向です。

前後合わせて逆王手 49 回。

小論簿

馬のスイッチバックエスカレーター+銀の単純エスカレーター+金の鋸引。

吉田直嗣

二歩進んで一歩下がる馬+エスカレーター銀+金鋸。

★ 解答者のコメントは機構の名称に言及しているだけですが(笑)、ばか詰で1歩を奪うためにこの趣向手順を成立させるとはまさに驚異的です。受賞文句なしと私も思います。

【パズル部門】

詰将棋パラダイス 1994年4月号
上田吉一 作 連続ばか自殺スタイルメイト
38手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
飛		と		と		と		飛	一
	と		と		と		と		二
銀		銀				銀		銀	三
	歩				角		歩		四
歩		歩		角		歩		歩	五
	歩		歩		歩		金		六
桂		桂		歩	王	桂		香	七
	香		金		桂		金		八
香		金			王			香	九

持駒 なし

43歩 44歩 59角 68角生 77角生 88角生

97角生 79角生 57角生 66角生
 99角生 55角生 73角 82角 91角 46角
 35角 24角 13角 22角 11角 33角
 42角 31角 75角 84角 93角 71角
 62角 95角 51角 15角 26角 17角生
 28角生 19角生 37角生 48角生 迄 38手

終局図

											9	8	7	6	5	4	3	2	1
											一								
											二								
											三								
						歩					四								
											五								
	歩										六								
						王					七								
						馬					八								
						王					九								

持駒 なし

受賞理由 (筒井浩実)

少ない条件で手順が完全限定されており、芸術的な作品と言えます。

解説 (筒井)

作意は全ての駒を角で取りきります。角を取る位置が2ヶ所、角を打つ場所が4ヶ所ありますが、作意以外では取りきれないことを確認してください。壁は後手の歩2枚だけですが、よく完全限定できたものです。4隅の取り方などもうまく出来ています。

喜多真一

一筆書きの理論にも似ており、こんな素晴らしいパズルは解く過程でも楽しめます。解後感最高。

作者の弁

全部の駒を覆面にしてもいいのですが、それだとみんなが解いてくれなくなるので普通の駒にした。

★最後の作者の弁が凄い。全ての駒を覆面にしても、駒種限定されると言うことでしょうか。気になる方は是非考えてみてください。

投稿募集中

ネットでのフェアリー詰将棋の投稿募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。投稿先は各々異なりますのでお間違えにないように。

第1回フェアリー詰将棋

短編コンクール

～作品募集要項～

★要項★

投稿締切：2009年12月6日(日)
 出題開始：同12月20日(日) <WFP第18号掲載>
 解答締切：2010年1月17日(日)
 結果発表：同2月20日(土) <WFP第20号掲載>

ルール・手数：協力詰系<※注>の作品(7手以内)。

評価方法：ABCの3段階評価。A=3点、B=2点、C=1点、誤解=3点、無解=計数除外。

出品数：1人2作以内。

出題方法など：作者名は伏せた上で全局一斉出題。評価点の平均で作品の順位を決定する。不完全作は失格(自動最下位)。

作品審査：基本的に無審査としますが、fm検討環境がない方の作品検討には協力します。

※注、今回のコンクールの「協力詰系」の定義

今回は、純粋協力詰か、または協力詰に何か条件を付加したルール(例：安南協力詰)を対象とします。勿論受先もOKです。

協力自玉詰など受方玉を詰ますルールや、かしこ系、ステイルメイト系、最悪詰、悪魔詰などは不可です。とにかく「双方が協力して最最少手数で受方玉を詰める」ルールにして下さい。

連続協力詰も可ですが、双方の手数の合計は7手以内とします(例：6+1手や4+2手は可、5+3手は不可)。

その他不明な点があれば遠慮なくお問い合わせ

せを。投稿締め切りまで余裕がありますので、作図を焦る必要はありません。求、自信作！

(追記)

「第1回フェアリー短コンで5手2解の扱いは？」という質問を頂きました。とりあえず今回は、作意が7手以下であれば2解でも出題可、但しその場合出題図1つに2作品含まれているとみなして、同じ人は2作目の投稿は出来ない、という運用で行こうと思っています。

他ではツインはOKですが1作まで、3解以上やトリプレットは不可、という感じで。勿論この点でも、今回はこれでやってみるというだけの事で、次回以降の運営方法まで縛るつもりはありません。

小峰耕希 (jigsawbox@nifmail.jp)

★ 小峰さんの HP に投稿用フォームが設置されていますのでそちらを利用されてもいいでしょう。

[K.Komine's Home Page](http://19900504.web.fc2.com/index.html)

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

お便りより

市村道生

先月号の「あとがき」の Urakabe さんの作品ですが、久しぶりの超長編ですので、俄然食欲が湧いてきました。詰上がりの形(14金)は直ぐに分かりましたが、問題は、手順の整理です。中々今期がいる作業ですが、暇にまかせて、ぼつぼつやっております。

★ 解答者の本能ですね、私も同じです。解けましたら感想もお願いします。

解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

10月20日(火)

詰将棋メモ 推理将棋第27回出題

* 推理将棋3題

10月31日(土)

Onsite Fairy Mate 152回出題
* 協力詰 1題

11月15日(日)

第15回WFPフェアリー作品展

11月15日(日)

Fairy of the Forest #21

あとがき

先月から今月にかけて、かなりの時間、詰将棋の創作にかけることになりました。これはフェアリー版迷宮の果てにへのチャレンジの為でしたが、2手ずつ延びる図を探していく過程を充分に楽しんでいくことが出来て結構充実した数週間でした。

しかしその弊害で、他の詰将棋(短コン&プレ短コン)、神無一族の氾濫への投稿作などへの取り組む時間が少なくなりその辺はちょっと複雑な心境でした。また本業(?)の詰パラ解図もほったらかしでこれから解図を始めるといった状態です。

体は1つしかありませんので、そろそろどれかをほどほどにしようかとも思うのですが、好きなことは止められないですねえ~。

たくほん

2009年 第16号

Web Fairy Paradise

非売品

平成二十一年十月号

平成二十一年十月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp